2023年度 事業報告

I 事業概況

0 基本方針・重点課題と成果

0.1 国際語エスペラントの普及発展をめざす本会は、コロナ禍という大きな試練を経て、従来の事業のあり方を大きく見直す機会ととらえ種々の改革を進めてきた。会員の高齢化による自然減はやむを得ないが、会員継続の呼びかけ、新会員を増やす努力を継続した。
0.2 エスペラント会館の将来について「エスペラント会館検討委員会」にて検討を進め、新会館の建て替えを目標とする「エスペラント会館基金」を立ち上げ、寄付金募集を開始した。
0.3 会員間の交流、各部や各委員会が活性化するよう、オンライン・アプリなども積極活用し、協力者を増やす活動を積極的に行った。
0.4 次世代にエスペラントの存在意義、価値、魅力を伝えていけるよう、SNSの効果的な活用、外部メディアの要請に応えた積極的な出演等、広報活動に力を入れた。
0.5 多言語・多文化共生時代において、少数言語や多様な言語の尊重が重要視される今、エスペラント界外の組織・個人との協働も積極的に行った。

1 エスペラント普及事業（担当：普及推進部）

1.1 基本方針と成果

1.1.1 国内外のエスペラント団体と連携し、エスペラントの存在意義、魅力を共有し、さらに広報し、エスペラントを普及する活動を行った。
1.1.2 本会会員との連携を強化し、エスペラント関係者や関係とも協働の輪を広げ運動の発展を図った。
1.1.3 各部との横断的な協力によって、エスペラント広報事業の活性化に努めた。

1.2 エスペラント普及推進事業

1.2.1 国内のエスペラント運動の現状を把握し活性化を図った。
a)『エスペラント／La Revuo Orienta』（RO誌）4月号に発表した「2022年エスペラント運動年鑑」の情報を生かし、活用した。
b) 広域、地域、専門、学校関連など、各種エスペラント団体の、2023年の活動に関する情報を収集し、「2023年エスペラント運動年鑑」として、会員専用ページで2024年7月発表予定。紙版でのニーズを考慮し、冊子での出版も別途予定している。
1.2.2 各種エスペラント団体と協働し、エスペラント団体の活性化に寄与できるよう努めた。
a) 地方エスペラント連盟の大会などに理事・協議員が出席し、各地のエスペラント運動について意見交換を行うように努めた。
b)「エスペラント運動年鑑」や「エスペラント会懇談会」の連絡網（メーリングリストなど）により、情報の共有、経験交流を図り、エスペラント団体間の情報共有を行ったが、整備はできなかった。
c) 第110回日本エスペラント大会（川崎市）で、全国のエスペランティスト個人または団体で作ったオリジナルの番組を発表する場を作り、エスペラント会の活発化を図った。
1.2.3 会員の拡大・定着に努めた。

a) 会員継続依頼の通知方法などの改善をしたが、2024年3月31日現在の会員数は875(38減)、個人会員が827(35減)、団体48(3減)。関東・関西地区の大学サークルが育ちつつあるが、引き続き会員の拡大、定着のための方策を考え直す必要がある。
b) 青年エスペラント企画支援金を活用して青年層のエスペラント活動を支援した。（1件）
c) 青年層にエスペラント活動の場を提供する団体にも青年エスペラント企画支援金の活用を促した。（0件）
d) 団体会員を対象に、広報冊子「通いあう地球のことば国際語エスペラント」の20冊パックを半額で提供した。
1.2.4 エスペラント運動に功績があった個人・団体に「小坂賞」を授与し、内外にその功績を広めた。（福本博次氏）

1.3 エスペラント広報事業

1.3.1 本会ウェブサイトにおいて、エスペラントに関する広範な情報を、一般向けによりわかりやすく提供できるよう内容の充実を図った。
1.3.2 インターネットに関しては、本会ウェブサイト以外にもSNS、動画サイト等を活用し、より広い層への広報活動を行った。
1.3.3 JEI広報委員会が、外部向けのニュースリリース「エスペラントの今」を年2回発行した。RO2023-8/9月号「1930年代を生きたエスペランチストたち」（28号）RO2023-12月号「北欧のジャーナリストが語る『ウクライナは今』」（29号）
1.3.4 コロナ禍を経てリモートでの参加方法に慣れ、今ではエスペラント界外の団体等の企画にはオンライン参加が容易にでき、交流・相互協力・協働できる機会が増えた。（従前の多言語・多文化共生領域やそれ以外の領域についても）。
1.3.5 第110回日本エスペラント大会（川崎市）を機会とした広報活動を行った。
1.3.6 世界的な「エスペラントの日」（『第一書』の発表された7月26日）や、日本の「エスペラントの日」（6月12日）を機会とした広報活動を行い、「1930年代を生きたエスペランチストたち」と題して講演会と展示会を行った。
1.3.7 世界エスペラント協会（UEA）とも協力し、広報活動を行った。

2 エスペラントを用いた国際交流事業（担当：国際部）

2.1 基本方針と成果

2.1.1 エスペラントによる国際交流事業を、特に世界エスペラント協会(Universala Esperanto-Asocio=UEA)の日本における国別代表組織として推進した。UEAのアジア・オセアニア委員会(Azia-Oceania Komisiono=KAOEM)、日本のUEA委員、UEA-delegito(都市代表者)と協働した。
2.1.2 日本のエスペランティストが行うエスペラントによる国際交流事業支援はなかった。
2.1.3 外国のエスペランティストに第110回日本エスペラント大会への参加を促した。

2.2 国際交流事業

2.2.1 2023年に開催された国内外のエスペラントによる国際交流行事への参加・協力を呼びかけた。
a)「青年エスペランチスト国際行動支援金」への申請は無かった。
b) 第108回世界エスペラント大会(イタリアのトリノ7月29日~8月5日)でUEA委員には委員会への出席を支援し、Movada Foiro（エスペラント運動展）にJEIとして出展した。日本のエスペランティストには大会への参加・協力を呼びかけた。参加旅行団は企画しなかった。

c) 第56回国際エスペラント教師連盟大会及び第79回国際青年大会(イタリアのリニャーノ・サッビアドーロ8月5日~12日)には日本からの参加は無かった。
d) 第41回東アジア青年エスペラントセミナー(ベトナム)には日本から1名が参加した。
2.2.2 アジアの青年活動家としてインドネシアの Adam Damario Prakasa を日本エスペラント大会に招待した。
2.2.3 日本のエスペランティストへの支援として、国際文通サービスを継続し、1件を仲介した。
2.2.4 KAOEMの機関誌Esperanto en Azio kaj Oceanio の編集・印刷・発送（1回）の支援を行うと共に、UEAアジア・オセアニア基金への寄付を呼びかけた。
2.2.5 日本エスペラント大会で「アジア・オセアニアの活動」と「第11回アジア・オセアニア大会」分科会を開催した。
2.2.6 第11回アジア・オセアニア大会を2025年9月に岡山で開催することとなり、準備を始めた。

3 エスペラント研究教育事業（担当：研究教育部）

3.1 基本方針と成果

3.1.0 各種事業で継続してインターネットの活用を進めた。また、外国語教育や国際交流活動におけるエスペラントの有用性をさまざまな機会をとらえ社会に提示していくよう試みた。
3.1.1 教育部門は、オンライン会議システムを用いて、オンラインセミナーを開催して地域を問わずエスペラント学習者の語学力向上の支援に努めた。
3.1.2 研究部門は、日本エスペラント大会の場を提供し、学際的・多面的視野からエスペラント研究の発展と増強を図った。
3.1.3 八ヶ岳エスペラント館については新型コロナウイルス感染症の動向を考慮して適宜開館状況を見直しつつ、本会の研修施設として活用を行った。

3.2 研究教育事業

3.2.1 エスペラントのオンラインでの学習や学習支援を充実させていくために下記の2つのコンテンツを活用し、エスペラントに興味を持つ人や学習者が本会を活用できる場を作った。
a) ウェブ教材「ドリル式エスペラント入門」の活用を推進し、学習支援事業を継続した。
b) 遠隔地からでも参加できるオンラインセミナーを2024年2月と3月の2回開催した。第1回「短期間でエスペラント力を向上！スキルアップのヒント」 鈴木隆三 受講者33人、第2回「著書La Senco de Musa vivoについて」 アレクサンドラ綿貫 受講者23名
3.2.2 学力検定試験を、年2回（日本エスペラント大会時、3月）定期実施した（大会時11名、3月13名が受験）。また受験者の便宜を図り、2023年10月実施の学力検定試験問題と模範解答(2級から4級)をウェブサイトに掲載した。
3.2.3 UEAの主催するKER試験（ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR準拠のエスペラント試験）については試験情報をJEIウェブサイトに掲載した。
3.2.4 日本エスペラント大会で研究発表会を実施し、4件の発表があった。文芸コンクールを実施し、エスペラント原作部門に4点、翻訳部門に2点の応募があり、入選作1点を表彰した。

3.3 八ヶ岳エスペラント館における事業

3.3.1 エスペラント漬け合宿（NEK）等の研修やILEI（国際エスペランティスト教育者連盟）主催の一般公開セミナー（10月）を行った。延べ宿泊数は454人
3.3.2 新型コロナウイルス感染症対策を実施して、安心・安全な利用ができるようにした。
3.3.3 快適な宿泊研修活動ができるよう、下記のような設備更新・館の保全を図った。
・近隣の倒木のリスクがあるカラマツについての相談
・蜂の巣の除去・小動物の駆除

・リネン維持・管理体制の見直し等

4 エスペラント雑誌の刊行事業（担当：編集部）

4.1 基本方針と成果

4.1.1 雑誌『エスペラント／La Revuo Orienta』（RO誌）を事業計画どおりの方針で発行した。

4.2 雑誌刊行事業

4.2.1 印刷版としてA5判約40ページの雑誌を電子版、音声版、点字版を含めて毎月発行した。ただし8・9月号は合併号とした。
4.2.2 編集体制の方針に沿って取り組んだ。
a) 長文向けSNSのnote.comに「エスペラント情報誌「La Revuo Orienta」編集部」として9月より掲載を開始した。
b) 編集会議を年11回オンラインで実施した。拡大編集会議を1回（2024年1月6日）実施し、La MovadoやNova Vojoの編集担当者も参加し、意見を交換した。日本大会では『RO誌読者交流会』を実施した。
4.2.3 RO誌の内容は事業計画どおりとした。
4.2.4 他部門と連携し、特集号を発行した。4月特集（2022年エスペラント運動年鑑）、2024年1月号特集（第110回日本エスペラント大会報告書）。

5 図書等刊行・頒布事業(担当：出版部)

5.1 基本方針と成果

5.1.1 エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動を行った。
5.1.2 内外のエスペラント図書を仕入れて販売した。また国外で発行されたエスペラント雑誌購読を取り次いだ。

5.2 図書刊行事業

5.2.1 出版物として下記を検討し、一部を実行した。またその他、具体的な出版物の案を検討した。
a) 下記の本会刊行図書の電子出版を行った。
・松尾芭蕉著、佐々木照央訳『Streta vojo al fora interno kun la japana originalo / おくのほそ道エスペラント対訳』(2024年2月26日発行)
b) 需要に即した教科書ないし文法パンフレットの出版を検討し、下記教科書の再版および新規辞書の発売を行った。
・阪直著『20のポイントで学ぶ国際語エスペラント入門』（5月20日発行）
・山川修一編著『エスペラント現代用語集〈12,000表現〉』（11月8日発行）
c) 日本大会・RO誌との連動企画等によって、知見を広めるような出版計画を検討した。
5.2.2 今後の出版物の準備、計画を行う。
a)『日本語エスペラント辞典』(宮本正男編)の全面改訂作業を新日本語エスペラント辞典編集委員会のもと進めた。刊行時期の明確化には至らなかった。
5.2.3 出版在庫について出版後30年後の処分を目安として管理と対処を行った。

5.3 図書頒布事業

5.3.1 エスペラント書籍の販売、取り次ぎを行った。
5.3.2 読書会の推奨、ウェブを活用した宣伝のほか、「文学フリマ東京36」（5月2日開催）、同37（11月11日開催）への出店を通して、エスペラントの広報とエスペラント図書販売拡大に努めた。
5.3.3「日本エスペラント協会在庫図書カタログ」の更新を検討した。
5.3.4 ネット販売などの新しい販売手段について可能性を検討した。
5.3.5 古本について、総務部と協力しながらできるだけ読みたい人に渡るように販売を行った。
5.3.6 販売開始からの経過時間に対して在庫数が過剰な50種の本・ファイルについて価格改定を行い、より広く手にとってもらえるよう工夫した。

6 エスペラント大会主催事業（担当：大会組織部）

6.1 基本方針と成果

6.1.1 2023年の日本エスペラント大会を、協力団体とともに準備を行い、開催した。
6.1.2 2024年・2025年の日本エスペラント大会について、同年開催の国際大会と合同開催にする方針を決定し、それぞれ開催準備を開始した。2026年以降の大会の開催方針・開催方法・開催地等については、引き続き検討を進めている。

6.2 日本エスペラント大会主催事業

6.2.1 第110回日本エスペラント大会を下記の通り開催した。
a) 開催日：2023年10月21、22日（土・日）
b) 拠点会場：川崎市総合自治会館
c) 協力団体：川崎エスペラント会
d) 開催方法：現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式
e) 大会テーマ：<エスペラント>がいま夢見る世界は何か
f) 参加者：登録参加者307人（拠点会場に来場167人、オンライン参加85人）、拠点会場の公開番組参加45人）
g) 開催地エスペラント会を主体とした現地実行委員会(LKK)方式を改めてJEI本体が主体となる形式とし、3日間の会期を2日間に短縮する、オンラインのグループ参加の制度を設けるなど、従来の日本大会のあり方を一部変更し、大きな問題なく開催することができた。また、大会プレ企画として、大会テーマについてのオンライン講演・討論会を5回にわたって実施し、テーマについての理解を深めることができた。今回の取り組みは、次回以降の大会開催の参考とする予定である。
6.2.2 第111回日本エスペラント大会を、第3回日韓共同開催エスペラント大会として開催することを決定し、準備を開始した。
a) 開催日：2024年10月4、5、6日（金・土・日）
b) 主会場：全州教育大学校（韓国全北特別自治道全州市）
c) 共同開催団体：韓国エスペラント協会
d) 会場・プログラムなどは開催地の韓国エスペラント協会が中心となって担当している。10月から日本国内の準備委員会、2024年1月から韓国LKKの幹部とJEIの幹部が参加する合同準備会合を定期的にオンラインで開催して準備を進めている。
6.2.3 第112回日本エスペラント大会は、第11回アジア・オセアニア大会と合同で開催することを確定した。岡山市が会場になる予定である。

7 その他事業及び法人の管理（担当：総務部、財務部、ウェブ管理部）

7.1 基本方針と成果

7.1.1 本会のエスペラント事業の核となる会員の活動を支援し、各事業部門とも連携して、事業が円滑に行われるよう支援した。
7.1.2 本会が保有する図書・視聴覚資料等の保存について、デジタル化を含めた方策の検討を継続して行なった。
7.1.3 今後起こり得る様々な状況に備え、本会の管理・運営方法を改善する。特に、新任の役員等に対しては運営上のルールや方針を記したマニュアルを整備し、支援した。

7.2 総務部担当事業の計画

7.2.1 総務部の職務（庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援など）を事務局及び関連委員会（選挙管理委員会、小坂賞委員会）の協力を得て、着実に実行した。
7.2.2 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を定期的に開き対応した。
7.2.3 図書館整備のためデータベース作成作業は遅滞しているが、図書館の整理作業は継続して行った。
7.2.4 図書販売促進のため、行事を利用した機会の他、ウェブを活用した活動を行った。
7.2.5 エスペラント会館5階倉庫にある出版在庫（委託販売品も含む）については、出版部と協力して、在庫の適正化と、コンテンツの電子化を含めた維持・拡充の方策を決め、実行に移した。
7.2.6 新会館建設に向けての寄付募集を開始した。
7.2.7 本会事業の継承のため、および役員の資料へのアクセスを容易にするため、電子情報保管庫の整理を行なった。
7.2.8 緊急時対応ガイドラインについて、事務局員、理事、監事、評議員、顧問で共有することを確認し、連絡網の整備、データ類の安全な管理方法について検討した。

7.3 財務部担当事項

7.3.1 公益目的支出計画および長期予算計画と整合を取りつつ、中長期的な視野の下に堅実な収支運営に努めた。

7.4 ウェブ管理部担当事業

7.4.1 本会ウェブサイトの維持管理を継続して行い、本会事業の広報およびエスペラントに関する情報を随時掲載した。また、本会ウェブサイトの利便性向上につながる施策について、部内での議論や検討を進めた。
7.4.2 本会のSNS（X、Facebook等）によるエスペラント広報活動を更に活性化するため、「SNS運用班」の設置準備を行った。
7.4.3 会員ページ（本会会員がパスワード付でアクセスするページ）について、RO誌電子版の定期掲載、「エスペラント現代用語集(山川修一編著)」ウェブ版の掲載など、各種の維持管理を行った。
7.4.4 開設から2年が経過した広報ウェブサイト「Saluton!」のリニューアル検討を開始し、部内での議論を進めた。
7.4.5 その他、本会の情報システムを担う部門として、各部局や委員会等の活動に対して、主に技術面での助言・支援を随時行った。